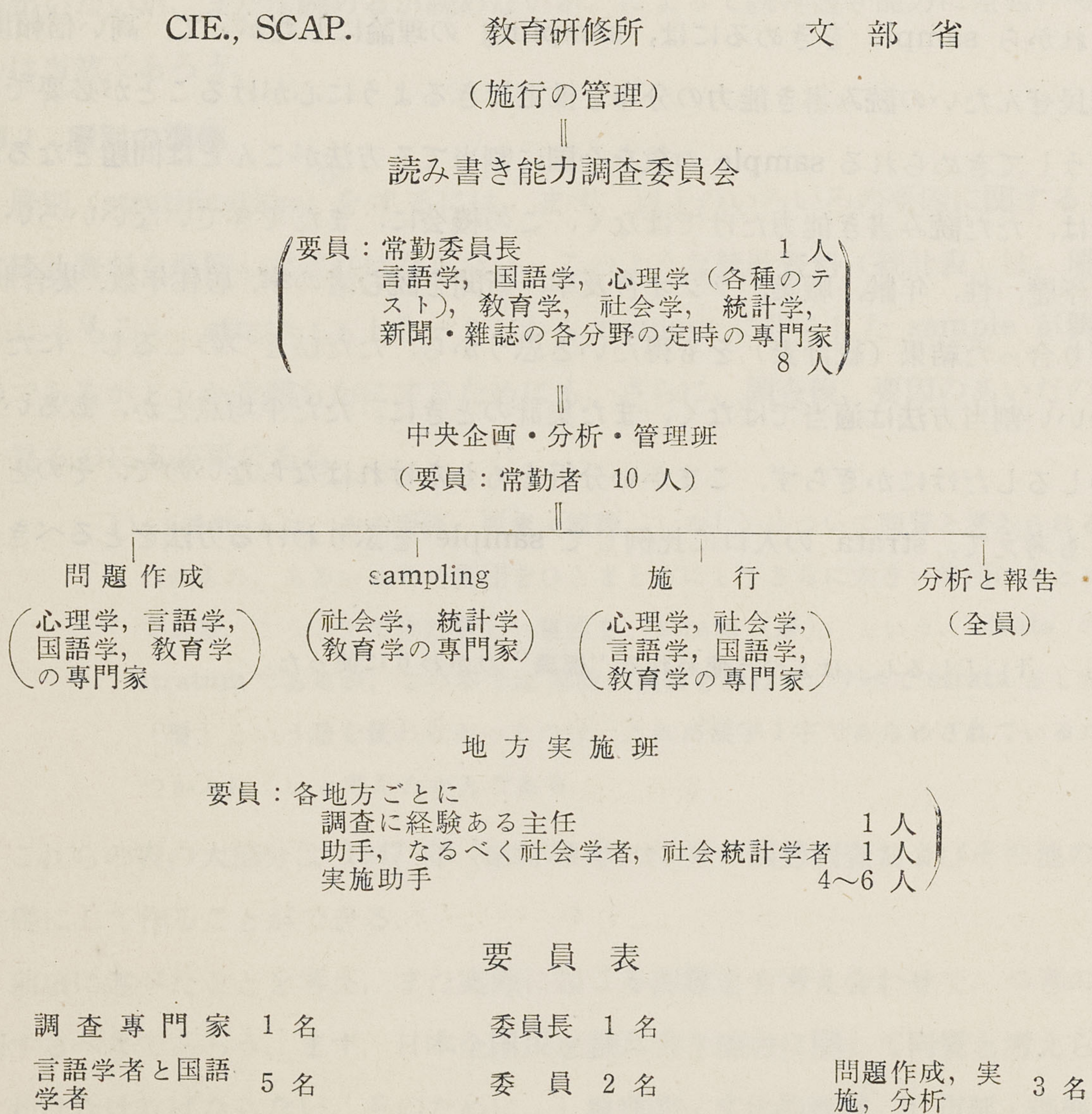


## § 2 調査の機構

### §20 機構と要員

調査の計画を立てるにあたり、教育研修所に設けられた準備委員のあいだで、まず調査の機構とこれを構成する要員、すなわち、調査にあたる要員の候補者の選定、委嘱についての協議をかさねた。

まず、はじめに考えられた調査の機構は、つぎのとおりである。



§ 2 調査の機構

調査専門家(特に教育心理学者)	4名	委員 1名	上とおなじ	3名
教育学者	2名	委員 1名	上とおなじ	1名
社会学者と社会統計学者	5名	委員 2名	上とおなじ	3名
新聞調査代表	1名	委員 1名		
雑誌調査代表	1名	委員 1名		
調査実施専門家(教育心理学者, 教育学者または国語学者)	5名	地方主任 5名		
sampling 専門家(社会学者, 社会統計学者)	5名		地方主任助手	5名
計	29名	14名		15名

しかし、実際には、これによって機構を作ることがむずかしい点があり、またこの運営の便宜を考えて、多少の修正をして、つぎのようにした。

読み書き能力調査委員会

委員長	1人	務台理作 (教育研修所長)
副委員長	2人	城戸幡太郎 (前教育研修所長)
		石黒修 (教育研修所所員)
委員	7人	(言語, 国語, 教育, 心理, 社会, 統計, 新聞・雑誌の専門家)

中央企画, 分析, 管理班

委員	10人	(言語, 国語, 教育, 心理, 社会, 統計, 新聞・雑誌の専門家で委員会委員の推選または協議による)
----	-----	--

助手, 副手はそれぞれの委員にまかせる。

地方実施班

委員	5人	(北海道, 東北, 東京文理科, 京都, 広島文理科, 九州の各大学教育学, 心理学教授)
----	----	---

地方主任助手, 実施助手は地方主任(委員)にまかせる。

事務局

幹事長	1人	鈴木秀三 (教育研修所庶務課長)
幹事	2人	(教育研修所庶務課員)

さらに、これを改めて、読み書き能力調査委員会と、その下に中央企画分析管理専門委員会を設けることにし、委員会はこれを、中央委員と地方委員とにわけることとした。それに文部省の関係事務官をオブザーヴァーとして、委員会、専門委員会(以下中央企画分析管理専門委員会をこのように略称する)にひとりずつおいて、連絡をはかることにした。

§ 2 調 査 の 機 構

1 読み書き能力調査委員会

委員 長

a 中央委員

b 地方委員……………委員 長

(文部省関係事務官)

↓  
2 中央企画分析管理専門委員会——→3 地方実施委員会

委員 長

a 指 導 員

a 委 員

b 助 手

(副手, 文部省関係事務官)

c 副 手

b 助 手

[d 臨時委員]

[c 補助員]

4 事 務 局

幹 事 長

書 記

専門委員会の委員は中央委員の推薦, またはこれと協議してきめ, 専門委員の助手, 副手は中央委員と専門委員との推薦, または協議によってきめた。

地方委員は地方実施委員会の委員長として, 指導員, 助手, 副手の選定, 委嘱をこれにまかせた。

3 月 15 日に委員, 専門委員の顔振れをきめたが, そののち補充, 変更があった。

この調査に関係した要員の氏名をあげると, つぎ (§§200~204) のとおりである。ただし, 地方実施委員会の副手の一部に欠けた者がある。(補助員は §201, 臨時委員は §203 を見よ。)

§200 読み書き能力調査の要員

1 読み書き能力調査委員会(略称, 委員会)

委員 長

教育研修所長, 東京文理科大学学長, 文学博士

務 台 理 作

a 中央委員

(言語学) 東京大学助教授, 文学博士

服 部 四 郎

(国語学) 東京女子大学講師

湯 沢 幸 吉 郎

(教育学) 東京文理科大学教授

石 山 脩 平

(心理学) 東京大学教授

高 木 貞 二

(社会学) 九州大学教授

喜 多 野 清 一

(統計学) 東京文理科大学教授

佐 藤 良 一 郎

§ 2 調査の機構

(統計学) 中央气象台技官, 理学博士	増山元三郎
(新聞・雑誌) リーダーズ・ダイジェスト編集長 オブザーヴァー	鈴木文史朗
文部省教科書局国語課長, 文部事務官	釘本久春
<b>b 地方委員</b>	
(北海道) 北海道大学教授, 文学博士	結城錦一
(東北) 東北大学教授, 文学博士	大脇義一
(関東) 東京文理科大学教授	依田新
(関西) 京都大学教授, 文学博士	矢田部達郎
(中国・四国) 広島文理科大学教授	古賀行義
(九州) 九州大学教授, 文学博士	佐久間鼎
<b>2 中央企画分析専門員会 (略称, 専門委員会)</b>	
委員長 教育研修所員	石黒修
<b>a 専門委員</b>	
(言語学) 日本大学講師	柴田武
(国語学) 前東京大学講師	金田一春彦
(教育学) 前教育研修所長	城戸幡太郎
(心理学) 第一高等学校教授	梅津八三
(統計学) 統計数理研究所員, 文部技官	林知己夫
(統計学) 統計数理研究所員, 文部技官	白石一誠
(新聞・雑誌) 朝日新聞記者 オブザーヴァー	影山三郎
文部事務官	白石大二
<b>b 助手</b>	
(言語学) 二松学舎専門学校教授	北村甫
(言語学)	早川通介
(言語学)	野元菊雄
(国語学)	都竹通年雄
(国語学)	満田新一郎
(教育学)	松樹美代治
(心理学) 教育研修所員	島津一夫
(心理学) 教育研修所員	肥田野直
(心理学) 教育研修所員	村瀬隆二

§ 2 調査の機構

(社会学)	教育研修所員, 文部教官	馬 場 四 郎
(社会学)		岩 井 弘 融
(統計学)	統計数理研究所員, 文部技官	水 野 坦
(統計学)	統計数理研究所員	丸 山 文 行
(統計学)	統計数理研究所員	石 田 正 次
(統計学)	統計数理研究所員	橋 爪 浅 治
(統計学)	統計数理研究所員	高 倉 節 子
(統計学)		堤 光 臣
(統計学)		藤 沢 大 仁
(統計学)		高 山 二 郎
(統計学)		針 ヶ 谷 正 男
(統計学)		原 田 明

3 地方実施委員会(略称, 地方委員会)

地方委員会の委員長は, 地方委員1のbがかねる. 調査の実施にあたって, 特に関西は近畿と東海・北陸とのふたつにわけて, それぞれ地方委員会をおいた.

a 北海道地方実施委員会

委員長	北海道大学教授, 文学博士	結 城 錦 一
指導員	松 本 達 雄	城 戸 崎 彰
助手	村 上 登	
副手	猪 口 照 雄	篠 崎 敬
	宮 本 実	渡 辺 晨

b 東北地方実施委員会

委員長	東北大学教授, 文学博士	大 脇 義 一
指導員	(東北大学助教授) 正 木 正	栗 林 宇 一
	角 谷 辰 次 郎	加 藤 謙
	芦 立 寛	
助手	小 林 え つ 子	
副手	藤 井 静 夫	佐 藤 棟 男
	櫻 井 一 男	相 馬 勇
	大 脇 園 子	高 瀬 常 男
	竹 内 照 常	宍 倉 徳 子
	高 橋 艶 子	

c 関東地方実施委員会

委員長	東京文理科大学教授	依田新
指導員	(東京第一師範学校教授) 阪本一郎	
	(東京都教育庁) 小尾虎夫	辰野千寿
助手	岡本奎六	
副手	成瀬悟策	眞仁田昭
	藤原喜悦	斎藤寛次郎
	菊池義夫	岩田文夫
	松岡武	橋本寛
	石黒大義	西平直喜

d 東海北陸地方実施委員会

委員長	京都大学教授, 文学博士	矢田部達郎(兼)
指導員	勝野鍊治	鈴木慶太郎
	佐藤十人	水野明治

e 近畿地方実施委員会

委員長	京都大学教授, 文学博士	矢田部達郎
指導員	(京都府教育部長兼京都府教育研究所長)	天野利武
	秋山洋一	今川義雄
助手	猪股佐登留	
副手	藤沢堯夫	竹本照子
	岡本夏木	高田明一
	大西憲明	生沢雅夫
	村田孝次	野沢千恵子
	関昌子	新海恵美子
	鈴木千恵子	

f 中国・四国地方実施委員会

委員長	広島文理科大学教授	古賀行義
指導員	(広島文理科大学助教授) 三好稔	片山卓治
	小川一夫	
助手	松本勝	
副手	田中国夫	林重政
	種橋正徳	安田愈
	米田博	林田泰伸
	古浦一郎	上田晃

§ 2 調査の機構

吉 元 勇

g 九州地方実施委員会

委員長	九州大学教授, 文学博士	佐久間 鼎
指導員	(九州大学助教授, 文学博士) 秋重 義治	
	大野 晋一	佐久間 章
助手	中村 弘	
副手	三隅 不二	中村 正雄
	万城 博	執行 嵐
	大野 善之	新村 豊
	船津 孝行	藤井 悦雄
	大隈 秀夫	大藪 寿一
	寺田 博之	

§201 補助員

教育研修所の国語教育研究室の研究員, 助手および臨時雇を補助員に委嘱した。

(研究員)	梶原 景寛	(研究室助手)	鈴木 啓子
(研究室助手)	仁木 富美子	(研究室助手)	谷村 玲子
(臨時雇)	大佛 文		

このほかに, 臨時手伝として, 実践女子専門学校国文科, 青山学院女子専門部国文科, 第一高等学校文科, 東京高等師範学校数学科, 東京大学文学部などの学生・生徒, のべ数千人がこの調査事務にたずさわった。

§202 臨時委員

実際の本調査において, 選ばれた地点の小学校の教員および地方自治団体の吏員を臨時委員に頼んだ。詳しくは, 教育研修所(今の国立教育研究所)に保存されている, 「実施状況一覧表」を見て欲しい。

§203 事務局員

幹事長	教育研修所庶務課長	鈴木秀三(転任のため, 後任)	小林 毅
書記	(教育研修所庶務課員)	久保田 哲次	半場 茂

§204 CIE の関係者

CIE(連合軍総司令部民間情報教育部)でははじめからこの調査の企画および実施にあたって絶大な協力, 援助をしてくれたが, 特に関係のあったのはつぎの人人である。

民間情報教育部	J. ペルゼル	(John C. Pelzel)
民間情報教育部	V. エドミントン	(Vivian Edmiston)
民間情報教育部		河野 六郎

民間情報教育部	齋 藤 襄 治
民間情報教育部	江 実
民間情報教育部	桑 木 務
民間情報教育部	原 田 素 代
民間情報教育部	西 平 重 喜

そのほか、各地方軍政部、各県軍政部の教育関係官でこの調査にいろいろ便宜をあたえられた人人は少なくない。

§205 I.B.M.の関係者

以上のほか、「分析」の計算は、CIEの好意により、ESS (Economic and Scientific Section, 経済科学局) の I. B. M. (International Business Machines) に頼み、つぎの人人には特別世話になった。

John R. Tierney	安 藤 馨
吉 水 秀 夫	中 村 一 雄

§21 任 務

§210 あたえられた任務

§20 にあげた各委員会、専門委員会などは、それぞれつぎのことの責任を負う。

1 読み書き能力調査委員会の任務

- a 計画全般を遂行すること
- b 要員を確保し訓練すること
- c 諸計画の準備と遂行とに関する統制
- d 調査の成果の確認

以上のほか地方委員は3で述べるような任務を持つ。

2 中央企画分析管理専門委員会の任務

a 問題作成

- i 資料を収集し分析すること
- ii 問題の草案を準備し、準備調査によって草案を訂正すること
- iii 実施、分析計画の準備および訂正に関して助言すること
- iv 結果の分析および報告

b sampling

- i 統計材料を収集し分析すること
- ii sample ひきぬきの計画を立て、準備調査によって計画を訂正すること
- iii 実施、分析計画および訂正に関して助言すること
- iv 結果の分析および報告



§ 2 調査の機構

c 実施

i 実施計画草案を準備し、準備調査によって訂正すること

ii 調査の実施と sampling における実施委員を選定し訓練すること

iii 準備調査と全般的な調査とを監督すること

iv 結果の分析と報告

d 結果の分析と報告

i 分析の草案と報告計画とを準備し、準備調査によってそれを訂正すること

ii 分析と報告に役立つ情報を得るため、全般的な本調査を視察すること

3 地方実施委員会はずきの任務を持つ。

a 調査の実施と sampling との訓練を受けること

b 現地の sampling を実施すること

c 専門委員会できめたとおりに調査を実施すること

d 答案、報告書などを返すこと

§211 任務の遂行

だいたい、§210 にあげられたようなことがおこなわれた。ただし、

1 §210 の 3 の「地方実施委員」の任務は「臨時委員」がはたした。

2 専門委員と臨時委員とのあいだに、「地方実施委員会」の人たちが立って、「調査の実施および sampling の訓練」の手助け、および答案、報告書などの取りまとめをした。

3 §210 の 2 c の「実施」および 2 d の「分析および報告」は、特に人をおかず、専門委員と助手（これを合わせて専門員という）が共同でこれにあたった。

4 §210 の 2 a の「問題作成」は、言語学、国語学、心理学の専門員がおもになってこれをした。（問題作成のための資料収集には、社会学、言語学、国語学、教育学、新聞・雑誌の専門員があたり、その分析には、言語学、国語学、心理学、統計学の専門員がこれにあたった。

5 §210 の 2 b の「sampling」には、統計学の専門員がもっぱらこれにあたった。

6 §210 の 2 d の「本調査の視察」は、上に述べたすべての専門員ができるかぎりおこなった。

7 §210 の 2 c iv の「分析」の計算は、ESS の I. B. M. に頼み、この結果のさらにこまかい分析には統計学の専門員がこれにあたった。

8 §210 の 2 c iv 「報告」は専門員が補助員の手助けによって、これをした。